

ー 全国の学校の先生のお取り組みをご紹介します ー

共通テストを見すえた、高2の3学期～高3の1学期の指導

さまざまな学校課題や指導テーマに対して指導を工夫されている先生方に取材を行い、その実践をご紹介します。

今回は、2023年共通テストを見すえた高2の3学期～高3の1学期のご指導について、国語・数学・英語の先生方にお話をうかがいました。ぜひご覧ください。

2022/3/15



高2・国語

基礎・基本を中心に、まずは対策を立てやすいところを得点源にする

【学校情報】 北海道・東北地区・私立中高一貫・普通科、1学年約330名、進路状況：国公立大 101名（難関国立大 37名）、私大280名

現高2生の実状

半数は内部進学で系列大学へ進学し、半分は国公立大学や医療系の学校へ進学希望。

共通テストに向けた新たな取り組み

① 「共通テスト同日体験」をきっかけにした意識づけ

国語・数学・英語は1月の共通テスト同日体験を一つの目標に据えている。12月には学習を切り替え、冬休みに「解き方」を身につけるために「重要問題演習」を課題として与えた。

② 得点できるところからきっちり指導する

共通テスト「国語」では200点満点のうち古典が100点で、古典は基礎・基本の習得が得点につながりやすい。また、現行課程では出題がはっきりしない実用的文章や、得点が不安定になりがちな小説よりも、指導効果が出やすい評論に重点を置く。生徒はテストや模試で点を取りたいと思っているが、点数が出ないと心が折れる。そこをうまくマネジメントしていく。

おもな成果

2年2月模試に向けて目標を立てて頑張るようになる

共通テスト同日体験で得点が出なくても、生徒たちは目的意識をもって、次の模試に向けて頑張るようになった。

問題集を効果的に活用できた

「重要問題演習 古典」では、共通テスト形式の問題で文法・句法などの基礎事項がひととおり確認できるようになっている。生徒の学習の流れに合わせた難易度になっており、共通テストに向けた最初の教材として適している。

また、付録の「学習サポートプリント」「現代語訳」を冬期講習で活用し、マーク対策と併せて個別大入試を見据えた記述指導も行えた。教材作成が大変なので、その手間が省けたことも大きい。

2022共通テストを見ての課題

① 問題の解き方と復習のしかたを意識させる

古文は主語の把握がポイントで、問題演習では誰の発話かをメモさせておく。あとで振り返り分析させる。また、解き方や復習のしかたについてアンケートを行っている。自分の考えていることを言語化することが、次の学習につながる。

② 精読を通じて速読力をつけていくこと

現代文の指導では、まずは一つの文章をきっちり読むことから。精読ができれば、速読もできるようになる。続いて、制限時間を意識した速読指導。最初は「30分かけて満点が取れるかな」と問いかけ、それができれば次へ進み、できなければ基本に戻る。

共通テストに向けた
おもな指導方針

共通テストや個別大入試で必要な文脈から判断する力も、基礎・基本が身についたうえで習得できると考えている。良質な問題を使って語彙や文法・句法などの基礎・基本を習得させて、深い読解力へといきたい。

いまはその土台づくり。

学校資料のご紹介

学習の成果が実感できる「必勝マニュアル」を配布

課題(教材)を与える際に、共通テストの各大問の特徴、優先度、個別試験との配点の違い、学習方法等をまとめた「共通テスト国語 必勝マニュアル」を配布した。生徒個々に応じた課題への取り組み方や学習方法も示し、「共通テスト同日体験」や模試の受験で、学習の成果が実感できるように工夫した。

共通テスト国語必勝マニュアル

【各分野の特徴】

評論…問題文自体はかなり高度でカチッとした硬めの文章だが、選択肢がそれほど紛らわしくないのが、演習を積んで「慣れ」をつくれれば、そこそこの得点は期待できる。得意なら満点も十分可能。

小説…現代文が得意な人でも小説の得点は安定しない。小説はどれだけ対策をしても満点を計算できない。共通テスト国語で180点以上とれるかどうかは、小説の出来にかかっている。

古文…問題文が長く、単語や文法の丸暗記だけでは太刀打ちできない。高得点を取るには、一読して話の筋がだいたい見えるくらいの読解力が必要で、国語の中では古文が最も差がつきやすい。

漢文…見慣れない出典が多いが、文章の内容は平易で設問も基本的なものが多いので、問題文の読み取りにはそれほど苦労しない。句法や語句の知識だけで解ける問題もあり、国語の中では漢文が一番満点を取りやすい。句法の暗記と実践演習の詰め込みで、すぐに35～40点まで達する。

共通テスト国語で特筆すべきは古文・漢文の配点の高さ。私大や国公立二次に比べて古典重視は明らかで、最近では文学部以外では出題されることの少ない漢文にも、古文と同じ50点が与えられています。配点が高く、学習すれば確実に得点力を伸ばせる古文・漢文に力を入れるのが、共通テスト国語攻略のセオリー。とくに漢文は満点も可能なので、ここで点を稼いでおきたい。ただ、漢文の学習では古文文法の知識も必要になるので、古文文法

【おまけ】

国語は「漢文→古文→評論→小説」の順番で解くのがセオリーと言われていています。これが一般的には「時間をかけて考えるほど正答率が高くなる順番」です。漢文と古文は合わせて35分以内で解き終わりたい。ただ、上記の順番やベース配分が自分に合わないと思ったら、そうする必要はありません。重要なのは、自分にあった順番やベース配分を模試を通して確認し、2023年1月の共通テスト本番を想定したトレーニングを十分に積んでおく

【古文】

古文文法を覚えたからといって、すぐに点数に結びつくわけではありません。暗記のみで点になる部分が意外に少なく、かなり長い文章をそれなりにしっかり読解できないと、一定以上の得点をとるのは難しい。古文対策というと、「文法・単語の暗記がメイン」というイメージがあるかもしれませんが、しかし、共通テスト古文で高得点を取るには、覚えた文法を使って「話の大筋を正確に掴む」トレーニングが欠かせません。過去問演習に入る

【漢文】

「漢文はどうもとつきにくい」と思っている人が少なくありません。しかし、現代文・古文に比べると安定感があり、覚えるべき知識の量は古文の三分の一以下。共通テスト漢文で求められるのは、一定量の句法と語句の意味で、あとは問題演習を通じて出題のくせに慣れるだけでいい。対策法は単純明快です。現時点で模試で漢文0点の人も短期間の努力で40点に乗せることが可能で、単位時間あたりの対策効率は抜群に高い。冬休みに漢

【現代文】

現代文の不安定要素は小説。反面、評論は問題文が難解そうに見えても、素直に「本文の内容に照らして、最も過不足なく忠実に内容をまとめている選択肢」を選べば正解となることが多い。したがって、まずは評論の得点能力を高めることを目標に取り組み。共通テスト現代文対策の第一歩は、センター過去問を10回分解いてみる。そうすると、評論に限らず小説でも、正解を選ぶコツのようなものが飲み込めてくるのが少なくありません。もちろん、「ただ解いて丸付けして終わり」ではダメ。解き終わったら、全選択肢について「正解の根拠」だけでなく「不正解の根拠」(最適と言えない理由)も丁寧に確認する作業が必要。現時点で共通テスト模試で現代文5割以下なら、センター過去問か



本社：〒700-0807 岡山市北区南方3-7-17

本資料の内容を、無断転載することを禁止します。
各種コンテンツに転載する場合は事前に弊社までご連絡ください。
本資料に関するお問い合わせや、
教材のご注文・見本請求などは、下記窓口までお願いいたします。

ラーンズ お客様センター 0120-548155 通話料無料

受付時間/月～金 9:00～17:00(祝日、年末・年始を除く)

